

平成29年度 第3回西伊豆町立文教施設等整備委員会会議録

- 1 日 時 平成29年11月21日（火） 19:00～21:00
- 2 場 所 西伊豆町中央公民館（安良里） 3階多目的ホール
- 3 出欠席 委 員：別紙のとおり
事務局：清野教育長、高木事務局長、山本諭、山本みち代、
江畑和貴
- 4 傍聴者 2名（静岡新聞、伊豆新聞）

事務局長

皆さんこんばんは。お忙しい中、また、寒い中夜間の会合へお集まりいただき、誠にありがとうございます。本日予定の皆様がお揃いになりましたので、第3回の文教施設等整備委員会を始めさせていただきたいと思えます。それでは開会と進行を委員長お願いいたします。

委員長

皆さん、こんばんは。昼間のお仕事でお疲れのところ、また、寒い中ご苦勞さまで。本日は第3回目の委員会ということで皆様の活発なご意見をよろしくお願ひします。それでは早速ですが、議題の方へ入りたいと思ひます。前回からの懸案事項になります（1）の旧洋ランセンター跡地の地盤調査の状況について、ある程度の結果が出たということで教育長から報告していただきます。

教育長

皆さんこんばんは。本日はご出席していただきまして、誠にありがとうございます。旧洋ランセンター跡地の地盤調査の状況についてご説明申し上げます。その前にですが、前回開かれました第2回の会合につきまして、委員の皆様を不愉快で不安な気持ちにさせたことについて、深く反省しております。全て私の個人的な問題によるもので、個人のことは全て個人内で解決すべきものでありまして、これからの話し合いを慎重に進めてまいります。大変ご迷惑をおかけしました。次に本題の旧洋ランセンター跡地の地盤調査の状況について報告させていただきます。先月16日月曜日に洋ランセンター跡地の地盤調査にあたっている静岡コンサルタント株式会社6名の方々から町長以下関係の役場職員約10名に中間報告がありました。私達にとってはその土地がどんな土地であるのか早く知りたいという思いがあつて、また調査にあたる側としては、その土地がどんな土地であるのか早く知らせたいという思いが重なつて、異例の中間報告となりました。皆さんには最終報告ではないことをご理解いただきたいと思います。したがいまして、ここでの説明も業者から提供された図面での説明ではな

くて、今こちらにホワイトボードを用意させていただきました。このホワイトボードへ略図を示しての説明となります。その場で説明があったことについて、出来るだけ詳しく説明をさせていただきたいと思います。私からの説明で足りない部分につきましては、後で同席した事務局長からの補足をさせていただきます。旧洋ランセンター跡地を上空から見ますと、大体このような形をしております。全体の面積は東京ドームの敷地面積の半分強で、この略図ではホワイトボードの幅の関係で上下に圧縮して描いております。実際にはもっと奥行きのあるところということでご理解いただければと思います。擁壁、この土地を支えている壁については赤で示しております。このような土地になっております。始めに左右の谷埋と示しております、谷を埋めた部分につきましては、ここは本来、谷だったところに厚い土が盛られておられています。その厚さは深い所で20mから25mということです。この中央公民館の建物、地表から一番上までが20m弱ということから、相当な深さだということが想像できます。ここになにか上物を建てようかというときは、基礎までの地盤へ15m以上の杭を打つわけですが、15m以上の杭は望ましくないということでした。私も後で調べてみましたが、これが15m以上になると杭がたわむそうです。それから、こちらの山の斜面にそった部分、そこにつきましては土砂が入ってきていて、落石、亀裂があるということで、このままでは学校や園を建設できない。建設する場合は法や条例の非常に細かい網の目をクリアする必要がありますとのこと。まして災害時には避難所として使われることが予想されるため、2重3重に規制がかかるということでした。次に段差を形成する法面について、先ほど説明させていただいたとおり赤で示した部分です。この部分については擁壁の役割を果たしていないとのこと。業者の言葉を借りると張りぼてというような表現がありまして、見せ掛けだけの擁壁ということで、その説明を聞いて私達も大きな衝撃を受けました。最後に残った中央の切土と書いてあるところは、比較的安定した地盤であるという説明でした。ただこの場所のどこかに調整池、広い土地には水が一気に流れないように調整池を造る必要があります。その調整池は左右の谷を埋めたところには造ることはできない。切土の部分に調整池が必要になり、ここへ上物を建設する場合にはここで赤く示して有りますが、これは切り立ったようなよう壁にあたる訳ですが、そこから後ろの方へと適度な角度をつけ、建物はその角度をつけた後ろへ建設しなくてはならないということです。しかし背面には崖が迫っておりますので、建設するのに適切な場所はごく狭い範囲に限られている説明でした。この場所に学校や園を建設するとなれば、用地の地盤を改良するだけで、20億から30億ともいわれておりまして、数十億円単位の出費が必要となるだろうという見

方です。この説明を受けて、町長は学校再編の移転先としてのこの土地を選ぶことを断念いたしました。私達も本当に思いもしなかったことで、にわかに諦めきれない所でありますけれども、他に新しい建設に適した土地を取得して整えた方がお金はかからないということですので、ここは切り替えていくべきだと考えました。この土地には大きな観光施設があったはずだと私の子どもの頃の記憶のみで突っ走ったことについて、皆さんにお詫び申し上げます。もっと慎重に時間を掛けて進めるべきでした。本当にすみません。

委員長

ただいま教育長のほうから、思いもよらなかった報告がありましたけれども、我々についてはここに当然できるものだと思って議論してきまして、今までの議論の中で幼稚園、小学校はここに新設するという方向性があったと思いますが、中間報告と言いながら非常に議論が難しい報告あったのですが、何か皆様の方でご質問がありましたらよろしくお願いします。

副委員長

中間報告ということで、まだ土地の調査はしているのですか。

事務局長

調査は中断しています。断念したということで、これで終了するということになると思います。最終的な報告は、ほぼ中間報告と同じものになるかと思われます。

委員長

他に皆様の方でありますか。今の話だと中間報告といいながら、正式な文章が来ないだけで、ほとんどここについては断念というような話がありました。特にないですか。無いようでしたら次の議題のところでは議論をしていただきたいと思っておりますけれども、その前に6月の第1回目会合の時に学校再編に係る文教施設等整備委員会の案ということで、幼稚園から中学校までの再編について、今回の洋ランセンター跡地を断念するというので若干の原案修正をしたいということで話がありましたので、教育長からそれについて説明していただきたいと思っております。

教育長

これからのことになりますが、皆さまからお許しを頂ければ、これまでの活動の経過を一度ここでまとめて、6月29日の事務局原案を修正してこの場で文教整備検討委員会案として、提案したいと思っておりますが、お許しいただけますでしょうか。

委員長

特にご意見無いでしょうか。原案を修正したいということですがよろしいですか。

平馬委員

6月に配られた資料の10ページのことですか。

教育長

そのページになります。

委員長

10ページの(4)の学校等再編の文教施設整備委員会(案)について若干の修正をしたいとのことですが、よろしいですか。

教育長

では1枚プリントを配布させていただきます。それでは引き続き説明をさせていただきます。今皆さんにお手元に配られたプリントですが、左側と右側の上数行は6月29日に配られたものへと訂正の線を入れたり、注として解説を加えさせていただいたものです。四角の中に囲まれたものについては、原案ではなく新たに整備委員会案として提案をさせていただく部分です。最初に幼保及び認定こども園の再編についてですが、この部分はほぼこの線というお話だったと思いますので、それをそのまま整備委員会案へと転記させていただきました。これについて如何でしょうか。これまでと違っているところがあればご指摘いただければと思います。よろしければ①から④まで一通り見ていただいて、その上で次の話し合いへと進めていただければと思います。次の小学校の再編についてということで、その部分を削ったり、置き換えたりというようなことがあります。まず小学校の一括統合は過去に伊豆市が4校一括統合を伊豆市再編計画に位置付けて、賀茂地区内でそのような動きはまだありませんと言うように書いておりましたが、そこは6月29日現在の周辺情報で、今後は周辺市町にも変化があると考えられます。2, 3日前の伊豆新聞さんが河津町について記事が載っておりました。様々この辺りは変化がある部分だと考えますので、この部分については除きました。それから(2)の統合後の辺りらしい設置場所はというところの統合を再編に置き換えました。そして最後の行の洋ランセンター跡地は、今はもうなくなりましたので、その部分を高台に置き換えればいいのかという風に考えました。そこが駄目なら高台ではなく、現在ある敷地内で考えたらどうなのかという意見も出てくると思いますので、もしそのようなご意見がありましたら出していただければと思います。これまでは高台移転ということで進めてまいりましたので、そのところは如何でしょうか。幼保園認定こども園にも関係することですけれども、その部分につきましては議論を深めていく中で、待てよということが出てくるかもしれません。これが今までの方向性だったかと思います。次に③の中学校の方向性についてですが、その下にもある通り、6月29日現在の周辺情報がこの中には多く含まれておりまして、近い将来

と見込んでいた松崎中の統合移転の時期が今のところ明らかに示すことができません。この項については細かな修正よりも改変が必要というように考えましたので、四角の方を見ていただければと思います。四角で囲った部分について出来るだけ速やかに町内の中学校再編を進め、中学生間の交流を図りつつ、組合立統合中学校、これは仮称でありますけれども現在の西豆地区3中学校設置の準備を進めていただきたいと思います、と言うようにまとめさせていただいたのですが、如何でしょうか。原案の中で、なお町立統合中の設置場所は、西豆地区3中学校の地理的な位置関係より、西伊豆中が適当とみられますと書いておいたところがございますが、これはまさに今から議論を深めていくところかと。その問題が解決しないことにはこれは先には進めないと考えました。ですから、四角で囲った委員会案では削除をさせていただきました。なお、原案を出した背景にはこのような事情がありますということで、皆さんのお手元には西伊豆町児童等未就学児の地区別分布図というものを配らせていただきました。これからもお話をする中で必要あれば使っていただければと思います。

桑原委員

この四角のところ、これで次の場所などを話し合っていくということでしょうか。

教育長

今までの話し合いの経過からここまでは皆さん共通に理解できると考えました。

桑原委員

その場合、前にアンケートを保護者に取った際にこれを保護者に示してアンケートを取った経緯があります。その場合中学校に仁科地区なのですが、最後の場所について西伊豆中学校が適切とみられるという文言を前提としてアンケートに答えていると思います。ですから、この場所についてはまたアンケートを取る必要があるのかと思います。それをこのアンケートを抜きにして、こっちの方向で進めていって、場所は例えば賀茂中学校になりましたとなった場合にそこで混乱が起きる可能性があります。そのところは丁寧に地域、保護者の考えを聞いて行かなければと思います。

佐々木委員

賀茂中学校も今のお話と同じで左側の③を保護者に提示して、これについて意見を取りましたので、今西伊豆中学校の校長先生がおっしゃったようにこれが変わってきますので、保護者に聞き直していかないと、大きな混乱に生じるのかと心配しております。

平馬委員

私は小学校の校長ですので、①②③④と見た時に③以外は町内のことで

済んでいるのですが、③は町内で統合を進め、さらに松崎との統合とあり、すごく違和感があると思います。ここだけ身勝手に進んでいる文章というように取れて、町内のことをまずどうするのかということをしちんとした方が良いのかというのが1つで、それと幼稚園の高台移転ということなのですが、前回、賀茂幼稚園の井堀会長が洋ランセンター跡地と言うのを前提にPTAを開いて全部意見を聞いてきており、そして写真も用意してきてくれまして、どういうところなのか分かりました。ところが今、崩れてしまい、井堀会長がやってきた全てのことを0になっているのかかわらず、どこかも分からない高台移転と言うのをここでまた出して、上に行けばただ安心だからという言葉遊びみたいな、真剣に議論を重ねてきた方に対してただ高台移転と言ってもいいのかというのは違和感を覚えます。

高橋（美）委員

仁科小学校も他の学校と同じように、前回の案を基にアンケートを取って考えてきたわけで、高学年の保護者は中学校のことについても意見があったわけですが、保護者の意見をもう一度聞かなければならなくなりますし、心配だったと言っていたバスのことも場所が別になると文教施設整備委員会案にするには色々な意見を聞いてきてここで決まったとなると難しいので、前のように事務局案出していただいてそれを基にもう一回各学校で意見を聞いてきてくださいということであればいいかと思うのですが、文教整備委員会案となると、私達もここでこの案を作ったことになる、また意見を聞いて新しい案ということは出来ない、会長も欠席しているような中だと、持ち帰らせていただきたい気がします。

副委員長

今たくさんの意見が出ました。まさに私もそう思います。この四角の中身はまったく漠然としていて、前回の物はたたき台として洋ランセンター跡地へ行くということで書かれていました。今回の物はまったく書かれていない。仁科小の校長先生が言ったように我々の案が全く見えてこない。案と言うのが無い物ですからこの場でお願ひしますという話はおかしいと思う。また、他でも話にありましたが、高台と言うのは何処になるのか。そういったところで漠然としている。中学の話とすると、当初は西伊豆中学校の方へ第一段階として統合という話だったが、今回は松崎中学を入れての3つの学校の統合を考えていますとあるが、その西伊豆中学校の統合についてはその考え方は無くなったのでよろしいですか。

教育長

無くなったということではなく、これからまとめて切れていない部分の話し合いをしていただければという思いです。

副委員長

それでしたらここに文章をいれてからでどうでしょうか。もしこのところがあるのでしたら、まったく書かれていないですね。そのことを書いた方がたたき台としては良いのではないかと思う。

教育長

これまでの話し合いが小学校、園の移転先として洋ランセンター跡地を前提としてきたと思います。それが無くなった今にとっては最初からもう一度議論をしていくということも考えとしてはあるかと思っています。実際私もこの会の中で白紙に戻してというようなことについて、色々ご意見を頂いております。ここの部分をもう一度最初から議論を始めるとしたならば、再編の是非から始めることが必要なのかと。そうするとまた統合、再編ということになると、さらにまた先送りにしなければならないこともありますので、最初に皆さんにこれから話を進めるのに如何でしょうかということで、話を進めさせていただきました。それからこの資料につきましても分けさせていただいたところです。ここのところは急ぎ過ぎであるということであれば、またそのように考えて、あまりこの案にとらわれず、議論を進めていただくということも必要かと思っています。

委員長

当初の6月29日の原案は洋ランセンター跡地ということが頭にあっただので、最初はある程度具体的なことを示していたが、今回はそれが無くなったため漠然としており、一步二歩戻ったような感じがします。皆さんも何が何だか分からない感じになっているかと思うのですが、そこでどうして小学校と幼保を高台移転ということで、高台の候補地をこれから探すという話になると、近年の統合は難しくなると思います。そういう方向で、新設で高台を探していくのか、既存の小学校・中学校の中で統合して、空いた校舎を幼稚園が統合して利用できる方向性で行くのか、色々考えられると思うのですが、その辺をまだ案は無いのですが、あくまでも別の高台を探して新設といった方が良いのか、皆さんの意見をどんな意見を持っているのか。

教育長

今のご意見の中でまだこれを出すのは早いのではないかと受け止めてまして、これからの話し合いを進めていく中で、何らかの提案をさせていただければと考えますが、よろしいでしょうか。

平馬委員

平成27年に中学の統合の話が進んで、地区説明会を行った経過があったかと思っています。私はその時に賀茂小での説明会に出ました。またその次の安良里での説明会でも出まして、そこで驚くべき結果になったことを思

い出しますけども、その時にはまず中学での統合ありきだったと思います。ここだともう幼稚園・小学校・中学校・給食センターまでを含めていっぺんにということで、その所で無理があったのだらうと思います。であるならば2年前にある程度同意を得られた所まで行ったことだと思います。ですから、まず中学の統合を第一に考えて、例えば賀茂中学校が西伊豆中学校に行った時に、賀茂中の校舎は浸水域ではありませんので高台ではないですけれども、あそこに津波が来るということは考え難い、と言うようになれば、例えば幼稚園とか考えることができるようになるのではないかと個人的には思うので、ここは④に拘らず、中学校の統合からというのを順序立てていただけるとありがたいかと思えます。

教育長

中学校の統合、それから幼保3園と小学校3校を同じ年にというのは当然無理があり、現場の先生方にも混乱を与えてしまうというところがありまして、この話し合いの中でいいたらうということになったら、順序よく整える必要は出てくるだらうと考えております。また、3校や3園いっぺんにというのは大変大きな無理が生じますので、一気にということではなく、現在小学校の方は複式学級ということもできます。その部分を先に解決しなければならぬだらうということもあります。一気に同じ年にとということではなく、その後に順序を整えるということです。もう一度先ほどの話へと戻りますが、ここはそれにとらわれない、自由な論議をしていただいて、その中で妥協点が見つければ、前進できる案が出てくればそれを説きあげていくという方向でよろしいでしょうか。であれば余計な混乱を招きますのでいただければと考えます。

委員長

であればこの案は再検討ということで回収するというところでよろしいでしょうか。

今の賀茂小の校長先生から高台移転に拘らないで現状の施設を統合の中で有効に使っていくという方法もあるのではないかという意見もありましたので、そうなると幼保・小・中一括統合というのが難しい話になるので、今後どうしていけばいいのかということになるのですが、教育長が最後に言ったように、賀茂小と田子小の複式学級を早急に解決する方がいいのではないか。賀茂小の校長先生が言ったように中学校を先に統合して、跡地を利用しての小学校や幼保の統合がいいのではないかという意見が出ましたが、皆さんの方で何か意見があればお願いします。

松田委員

前回の会議の時も話をしたのですが、平成32年までは中学校は統合できないということで、幼保・小学校を新設するにしても予算等の問題でそ

れより前には出来ないということで、するなら中学校統合だったら話が進みやすいとこの前の時にしていました。これで松崎中との統合を視野に入れているから難しくなっていると思う。先ほどもありましたが、松崎中学との統合は10年後となかなか計り知れないということで、それだったら校長先生が言ったように、2校の統合を先行すれば跡地の利用も見えてくると思います。

委員長

中学校の統合ですけれども、まず西伊豆町内の2校の統合を進めた中で、校舎を利用したような、その後の再編の仕方もあるのではないかと意見ですけれども、他に皆様ご意見はありますか。幼保もいずれは中学生になるわけですから、みんなそれを思うと関わりを持ってくると思います。

西伊豆中学校PTA会長が本日欠席なので、賀茂中学校PTA会長にかありますか。

齊藤（一）委員

話を聞いておまして、これでは話に進まないと言いますか、前回意見交換というのがありましたが、そういう話し合いも今の段階では回答は無いのですか。

事務局長

前回、様々な中学の統合に対するご意見いただいております。その中で検討資料がほしいという話がありまして、今回事前にお配りさせていただき、それを基に中学校再編については議論を深めていただきたいと考えております。ですので、前回、皆さんから頂いた意見も踏まえて皆さんで議論ができればと考えております。

委員長

当初は幼保・小学校・給食施設、中学を一気に進めるということで、だいぶ議論をしていただいていたのですが、それが高台移転となり、元に戻り、また議論をしなければならぬのですけれども、この前の委員会の時に説明したとおり、中学校の統合を考えて、それから一歩ずつやっていくが現実的ではないかという意見が出ましたけれども、これについて皆さんの意見を頂きたいのですが、ありますか。

浅賀委員

前回の会議の中で、教育長に確認いたしますけれども、中学校の統合を第一に考えたいというお考えがあつて、洋ランセンターの跡地が駄目になったということですので、幼保と小学校は考えられないということで、最初に中学校のことを中心にして議論を進めた方がよろしいのではないかと考えます。区長さんや平馬校長のおっしゃるとおりだと思います。

教育長

中学校を先にというのは、小学校で一緒になったとしても中学校で分かれるということについて、いずれ再編で一緒になるのですが、その間は意味のあることなのでしょうかと考えます。そしてもう一つはとてもいそいだ事情として、下田市の再編があるということもあります。下田市と同じ時期だと、お互いに邪魔しあうということになってしまいます。ただ下田市の統合の2年前にこちらをとると、今日この場で結論を出さなければ教職員人事というものが年明けすぐに始まりますので、それからはくしくになります。ですが、この場で結論を出せるかというとなかなか出せないわけですので、予定しておりました2020年の1年後は、下田市の統合予定の1年前となります。果たしてその時に、そこを何とかというようなことで通用するかしないのかということについては、これは難しい交渉をおこなわなければならないと考えております。ですが、ここで2020年が無くなるとすれば、あと1年間議論する時間が取れますので、その中で話し合いを深めていけばと思います。

事務局長

先ほど賀茂小学校の校長先生の方から、中学校の空いた土地に幼・小をというような意見もございましたけれど、そのような考え方で幼・小を進めるのか、それともあくまでも高台移転を望むのか、その辺のご意見を頂いた中で、方向性を決められないかと感じましたが、幼・小のPTAの皆様その辺の意見をいただけませんかでしょうか。

齊藤（英）委員

統合ということで意見ですが、今回会長をやらせてもらったのですが、今ここで洋ランセンター跡地から変わった中で私の意見を言うとなると、個人的な意見でしかないのですが、また意見を求めるのであれば、もう一回持ち帰って、保護者にアンケートや会合を持ったうえでの回答だったら伊豆海認定こども園としての回答と言えるのですが、今現状の質問に対して答えを求められると個人的な意見になってしまうのですが、よろしいですか。

山本（昭）委員

仁科幼保園です。私達も会長さんと園長と会議に出ている中で、昨日も役員会の中で、第2回までの様子を説明してきました。この文教が平成26年度に始まってからの色々な保護者の要望を聞きながら、保護者の不安になることを話したから、高台移転という要望を出して待っているわけです。昨日もお話したのですが、昨日の時点では結果が分かりませんでしたので、保護者にももう一度こういうことになったことについて、賀茂小・中のところでの場所が、高台として認めて、保護者がそういうところなら

大丈夫という意見を持つのか、それとも高台、これから高台を探して対応するということになるまで待っているのかということも、私としてはまだ会長さんと話をしていないのですが、一度持ち帰ってどういうことを求めているのかお聞きしたいと思います。

委員長

皆さんの話を聞いていると、皆さんは各園・学校の代表としてきているので、個人的な意見は差し控えて、一度話を持ち帰って意見を集約したいという感じですので、なかなかここで意見を言ってくださいと言ってもなかなかできないと出ないと思いますので、どういうことを次の会合までに持って来ていただきたいかというのを事務局の方から次回までにこういうことを話し合いして、園なり学校なりの意見を持って来てもらいたいということを説明してもらいますので、改めて学校等へ持ち帰って検討していただきたいと思いますが、事務局はよろしいですか。

事務局長

幼保・園・小学校については、先ほど申し上げたとおり既存の文教施設の津波浸水域外のところでもいいか、それともあくまでも高台を望むのかということについては、幼保・小学校については確認をしていただければと思います。中学校については、前回からも賀茂中学校、西伊豆中学校どちらかという議論も進められておりますので、そのままこの議論を進めればいいのかと思っております。給食センターにつきましては、どこにどう統合するかによって、すぐに1つにまとめられるのか、それとも段階的に進めなければならないのかということになるかと思いますが、まず幼保・小・中の方向が決まってからになるかと思いますが、中学校はがどちになったとしても、それなりに津波対策も進めていかなければならないと思っております。高台につきましても、いくつか検討はしているところです。前回もらんの里堂ヶ島というような発言もありましたけれども、そこも候補地の一つであろうかと考えております。高台候補地については、みなさんのご意見をいただきながら、高台移転を優先するとなった場合にはすぐに動けるよう事務局としても考えております。

窪田委員

仁科幼保ですが、何年も前から高台に移転して欲しいと署名も集めて、提出をさせていただいている経緯もあり、何年も前から小さい子ども達が海の近くにいる、当然津波が来たら500m離れている裏の山、大人が全力で走っても5分以上かかるようなところを0.1.2歳児は先生がおんぶをしたり、ベビーカーを押して避難訓練をずっとやってきた経緯があり、それでは無理があるという保護者からの意見がありました。もちろん先生方は非常に協力してくださっているのですが、それでも無理があるという

ことでどうにか避難場所を替えたり、高台移転が無理であればそれに匹敵する場所に移転をしたりして、安全な場所を確保して欲しいということを何年も前から言っているはずだと思います。なので、かなり議論をされた結果の高台移転だと思うので、持ち帰ったとしても同じだと思います。人命第一で子ども達と子ども達を守る先生達の命も守らなければいけないということで、保護者達も話し合いを何年も前からしていることです。最初から最後まで、もともとは地盤調査がはっきりしてからと書いてあったはずが、それを洋ランセンター跡地に移転ができる前提で話が進んできてしまって、段取りの前後してしまって、結果何も実らず、今日を迎えてしまったというがっかり感がすごくありまして、先ほど園長先生がおっしゃったとおり、昨日この会議のために、役員達に9時過ぎまで残ってもらいこの話をしました。ドローンで撮ってもらった写真も保護者に回して、こういう場所だということを確認してもらい、1から10まで説明した結果で今日に臨んだのですが、こういう結果になってしまって、また持ち替えて検討してほしいという内容も、高台移転にするかどうかというのは、長い期間をかけて大勢の保護者の協力を得て、園内で散々議論してきました。その結果でやはり人命第一なので、高台移転、もしくはそれに匹敵する安全性のある場所にすぐに避難できる場所を確保して欲しいですけれども、そうすると、幼保だけをどうこうということではなく、小学校や中学校の統合をするかしないか、どこの校舎がどれだけ教室が空くかなども考えて、そういうことも含めて話し合いをおこなって、小学校が空くだったら小学校を使おう、中学校が空くのだったら中学校を使おうとなっても、色々な議論をした結果、教室が空きませんでしたということになってくると、議論したことが無駄になってしまい、保護者達も真剣にこの会議のことに向き合ってくれているので、ある程度高台に移転しようとするのであれば、第1から第3候補地くらいまで上げて欲しい。場所もどこにどんな土地があるか知り尽くしている訳ではないので、ある程度の提示をしてもらい、地盤調査までしていただければしてもらい、結果でどうだということまで行ったら、高台移転するためにどういう風な統合をしていこうかという議論があつて当然だと思います。もう少し段取りよくといったら失礼かもしれませんが、ある程度、私達が持って帰って話をするのにあたって、確実に明確な道筋を示していただけないと、議論するのにどうやって議論していいのか分からない。このまま持って帰っても、抽象的な案が出るだけだと思うのですが、それはそれでここでまた報告ということになると思うので、そういうアンケートの仕方でいいのでしょうか。

事務局長

事務局としましても幼保の子ども達につきましては、1日も早く安全な

場所にということを前提で考えております。前回は説明させていただきましたが、1年でも早く洋ランセンター跡地での整備を進めるには、同時進行で進めていくのがベストであり、用地が可能であればすぐに設計準備に入りたいと考えておりました。地盤調査が終わってからこの会で議論となりますと、可能となった場合でも1年近く遅れるということもありましたので、可能となった場合は、無駄になるかもしれないというリスクもありましたけれども、同時進行させていただいたという経緯でございます。本当に無駄になってしまいましたが、このような経緯があったということをご理解を頂きたいと思っております。とはいうものの委員の皆様をはじめとして、各PTAの方々にも真剣に議論していただいておりますので、本当に申し訳ないと思っております。高台移転につきましては、正直な所、皆さんが高台を希望したというのは、洋ランセンター跡地をイメージして高台移転をとということもあったと思っております。今から高台を探すとなるとそれなりに時間がかかります。調査費用もどこまでかけるのか、同じような調査費をかけて、いくつも調査するというのは非常に難しいかと考えております。ある程度は絞った中で進めなければなりません。なるべく早く統合を進めていくには、今ある文教施設跡地を利用の方が早く統合は進められると思っております。当然、津波対策等は考慮して進めなければと思っております。先ほど高台の候補地ということで、らんの里堂ヶ島あたりも候補の一つと申しあげましたけれども、他にも適地を探していますが見当たらないのが現状です。らんの里堂ヶ島も現地を見させていただきましたが、調査も必要ですし、簡単にはいかないのかという感じを持っております。皆様からそのところを早急に調べて、そこが可能であれば早めにやりなさいということになれば、議員の方や町長の方へ確認をして、進めるということも出来なくはないかと考えております。

平馬委員

中学校については、とりあえず賀茂中学校と西伊豆中学校で場所をどこにしておくかという議論をおこなっていき、幼保・小については、既存の施設を使うのか、高台移転なのかという話でしたが、高台移転は洋ラン跡地を想像していたので、これが無くなったら高台という言葉自体が無くて、既存の物をどのように使っていくかということを考えていくということによろしいですか。

事務局長

先ほど仁科幼保の会長さんから話がありましたが、現状では洋ランセンター跡地というイメージは当初ありましたけれども、それが無くなっても高台に移転を希望する、既存の施設ではなく高台移転をとということかと受け止めましたが、そういうことによろしいでしょうか。

平馬委員

仁科幼保の会長さんがおっしゃっていたのは高台と言ったときに、いくつか例を示してくれないと説明のしようがない。ただ高台というくくりでは説明のしようがないというところまで来ているのだから、もし高台ということならば、候補地を示してくれと言うように私はとらえたのですが、それも無いのであれば、もう高台と言う言葉自体が存在しないし、どこという候補地も存在しないのであれば、もう場所は既存のところを使用していくという議論していくしかないと思ったのですが、違いますか。

窪田委員

そうです。津波があったので何年か前に高台へという要望は確かにありました。ただ、そのなかに説明にありました、洋ランセンター跡地なのからんの里なのかわからないですけれども、漠然とした希望のなかにはそういう場所を想像していたかもしれないです。ただ、ここがだめになりました、洋ランセンターが個人の所有する場所であると説明を前に受けましたので、高台でなくても、避難するのに高台に匹敵する子ども達の命を守れる場所があれば、今の場所から裏の山に逃げることを考えたら、もう少し簡単に小さな子供達が命を守れる場所があったらいいと思います。保護者は高台移転自体が、場所的にここが駄目だとなると、どこがいいのかというのは自分達で案を示すことは不可能なので、ある程度場所の候補を出して欲しい。小学校の耐震の表を前回配られた物で見たのですが、小学校統合して新校舎と言っていました、耐震的には1aがついていてまだまだ使えるのではないかと私は思っていたのですが、昨日役員会の方で説明をした時に、これから子どもが減っていく時に新校舎を建てるのかという質問もありました。使えるのならば既存の校舎を使って、洋ランセンター跡地に建てようとしていた予算で、巨額な修繕費がかかると言われる西伊豆中学校の体育館の修繕をした方がいいのではないかと。そもそも統合して新しい校舎を建てるということが決まっていたことなので、それ以上の議論は出来なかったのですが、ここにきてこの場所が駄目だったから既存の校舎をとということになると、初めから使えるのであったらその場所に新しい校舎を建てる必要は無かったと思うのですが、如何でしょうか。それも含めて私自身も細かいことの辻褄が合っていないことが表を見てとれるので、どう持って帰って、みんなに説明して意見を頂いたら分からない。先ほど質問で聞いたのですが、耐震ランク1aと言うのは、安全な方のランクではないでしょうか。前回の説明の時にそういう話だったと思うのですが。それだったら仁科小学校は全然使えるのではないかという意見も頂きました。田子小学校は1bとどの程度まで行くと危ないのか分からないのですが、1aならばまだ使えるのではないのでしょうか。この際この場所

が駄目になったのであれば、その分の予算を既存の校舎に使えるということならば、使ってもらい、違うことにお金を使ってもらおうという話し合いの意見もいいのかなと思います。

事務局長

大前提として安全な所に子ども達を移してあげたい。既存の施設を改修しての統合も一つの選択肢かと思います。あくまでも間違いなく津波が来ない高台に移転したいのか、それとも安全だが、想定外の時に津波が少し来る可能性があるところでもいいのか、例えば賀茂小中についても、この比較表のとおり体育館までは津波が来ます。想定外のことを考えますと完全に来ないということでもございません。そういうことを考えた時に安全な場所をどう捉えるか、お伺いできればと思います。

副委員長

たたき台というものを出示していただかないと、素人から見てどこが良くて、どこが悪いというのはよく分からない。そのことをたたき台として出してもらって、初めて役員やPTAの皆さんに図るということをしないと今ここでなにをやっても埒が明かない。今回6月に出されたこういうものがあれば検討の材料にも出来るのではないかと思う。

事務局長

事務局といたしましても、いくつか案をお示しして議論を進める方が良く思っております。そのために本日皆さんからある程度ご意見を頂いた中で、絞った案をご提示できればと考えております。

井堀委員

本日、全て白紙になったのですが、今仁科幼保の会長さんが言いましたが、既存の使える校舎という話で進めたとしても、結局現在でも中学校の校舎について揉めているので、そういうことも考えて話してもらいたい。

事務局長

当然それも議論になろうかと思います。ですので、中学校の比較表も作りましたが、同じような形で小学校も既存の建物を使うとなれば、その辺の資料も取りまとめなければならないかと思っております。

教育長

高台移転については、4月におこなわれた町長選挙と議員選挙の中で触れている方は何人かおりました。具体的な場所について、言う人と言わない人様々でありました。そして多くの方は洋ランセンター跡地を意識していたと考えております。私もその通りでありました。ただここが使えないとなると、新たな候補地を決めるにしても、同じ失敗は繰り返せない、取得して駄目だったということは許されないわけですので、まず調査をして、そこは可能性があるのかというような話になります。その場所が具体的に

どこなのかということで考えた時に、適地というのは本当に少ない。ですがまったくないということではございません。その1つに前回からも話題に出ている、堂ヶ島らんの里跡地はどうかという考えがあります。そこを果たして調査のためにお金を使っていいのかということについては、そこ考えてみてくれと、この中でご意見が出れば力強い後押しになります。

平馬委員

そこはなかなか難しいと思う。例えばこういうところがあるけれども、調査させてくれないかというのをこの場で言って、調査にいくらかかるかわからないが、それ使ってくれということ自体はかなり難しい話だと思う。先ほどの繰り返しですが、やはり既存の建物であるならばこういう表を見ながら議論をする土台を作っていただきたいと皆さん言っていると思うのですが、私はそのように受け止めているので、まず土台を作ってください、そしてそこでこういうことを議論していただきたい、それぞれのPTAや学校に戻って、こういうことを議論してもらいたいというのを明確になった上で、話をさせていただければありがたいと皆さん言っていると思うのですが。

委員長

洋ランセンター跡地が駄目になったのだけれども、あくまでも高台移転をと皆さんがこだわれば、後は候補地としては堂ヶ島らんの里跡地くらいしかないかと話がありますが、ただその堂ヶ島らんの里は個人の土地ですし、私の考えでは今の洋ランセンター跡地よりも難しいのではないかと漠然とですが思っております。当初、幼保も小学校も新設というような考えがあったので、皆さんが高台という声が強ければ、そこも調査費が結構かかると思うのですが、委員会の意見が、そういう意見だったら教育長から町長の方へと委員会の意見がこうですと説明していただいて、予算をとって調査をしてみて、その結果で駄目になるかもしれませんが、そこまではやってみようかという考えがあるということなのですか。

窪田委員

高台移転するには、安全な高台が無い、候補地が無いという話でしたので、そうであればそれを前提に保護者にこういう話し合いの中で、このような話し合いだったのだけれども、高台に移転できないのであれば、どういった案がいいかという話し合いの中で、私達が保護者の方に議題を持って帰るのに土台ができたと思います。そういう話や提案、知り得る情報がある程度提示してもらわないと、保護者だけの知識では話し合いが仕切れません。提案や情報をもう少し出してくれた結果、話し合ってきてくださいと言うように、話し合いをするにあたっての情報をもう少し欲しいと思

ました。

松田委員

もう高台というイメージを無くして、より安全な所へというイメージで説明してもらい、仮に高台といっても、津波に対しては安全かもしれないが、がけ崩れに対してはとても危険です。そういう高い所というのは、このような危険性を孕んでいるから、高台と言うイメージをやめて、より安全な所のイメージで探してもらいたい。そういうのを比較したら、表にある施設はある程度、津波の時はどのくらいまで来てというのは分かっているとします。幼保の子ども達だったら、裏山に逃げなくてもそのまま2階や3階へ逃げれば、十分津波はしのげるということまで考慮して選んでいけば、少しは早く使えると思う。新しい所となると、調査にお金がかかるし、建てるにしてもお金がかかります。でしたら、今ある施設のところを建設する方が時間もお金もかからないと思う。

教育長

高台移転についてどうなのかということについては、堂ヶ島らんの里跡地についての資料をあまり持ち合わせていない。資料を揃えれば、調査があって初めて資料が揃うという状況です。まずここでその選択肢を除くのかということについて、どう考えたらよろしいでしょうか。

窪田委員

今の話を聞いた限りだと、除かないと話が進まない気がします。私達が保護者の方に意見を聞くにしても、高台には高台なりのリスクがあったり、場所の確保が難しかったりということを知って理解しましたので、それは選択肢の中に入れたい方がより話は進みやすいと思ったので、そういう情報が欲しいです。やはりここで初めて知らないことを教えてもらい、おそらく保護者の方は高台と言うと、山があるからどこでも高台と、他の山があると思っている方が沢山いると思います。ただこのように土砂崩れがあるから危ないことや、それにふさわしい土地の確保が難しいということを知れば、辞めた方がいいという話になるかと思います。なので、高台は視野に入れたいと今まで通りの説明をして、話し合いを進めていかなければいけないと思います。

委員長

というような意見で、確かに先ほど言いましたが、洋ランセンター跡地よりも地形的には悪いかというところで、調査をするにも莫大なお金と時間をかけて、調査の結果が必ずしも満足いく結果にはならないと思います。私の個人的な意見としても、既存な施設の中で再編しながらやりくりして、幼・小・中学校をうまく統合できないかという考えがあります。

事務局長

皆さんの方から既存施設を活用した中で、事務局案を提示してそれから議論ということであれば、早急に今の施設を活用した、または、今の文教施設のある土地を活用した事務局案をお示しさせていただければと思いますが、どうでしょうか。

委員長

そういう方向でよろしいでしょうか。反対意見がありましたらお願いします。では、中学についてはこの比較表がお手元に行っていると思いますので、何かの機会にPTAの中で話し合っていたいただきたいと思います。

事務局長

中学校につきましても、今日はどちらかにと議論が出来ればと思ったのですが、全体的な部分での検討をしなければならないということもありますので、この辺を次回以降にということにさせていただいてもよろしいでしょうか。

齋藤（一）委員

中学校統合の資料についてですが、これを持って保護者と検討してみてもらいたいと言われても、比較対象といえますか、自分達でこれをまたまとめ伝えるというのは難しいと思うのですが。

事務局長

こちらを保護者の方にお示しして、次回に意見を持って来てもらいたいということではなく、これは中学校の検討資料ではありますが、今度は幼・保・小まで含めて全体的な用地、施設の活用ということになりますから、その辺のお示しをした後に、保護者の方々と議論をしていただければと思っております。この資料につきましても、皆様からの疑問点についてまとめさせていただきましたので、保護者の方からの疑問点等については、この中でご説明をしていただければと思います。それ以外にも資料が必要だということであれば、次回ご用意させてできればと思います。是非、次回このような資料が欲しいというものがあれば、この場で言っていただければと思います。

松田委員

借地状況について、西伊豆中学校の体育館は2000平方メートル。賀茂中学校の方は、736平方メートルについて、これは借りているということですね。

事務局長

そのようになります。

松田委員

ということは誰か持ち主がおり、お金を払っているということですね。

分かりました。

齋藤（一）委員

前回、意見交換ということで賀茂中学校は保護者にアンケートを出して、そのまとめたことをここで話させてもらったのですが、今回聞いていくと、前回の話がなんて話をしたのか、道しるべが全く見えない。賀茂中学校としての意見を教育長さんに話したわけですが、それでただこの紙が来たわけで、結局議事録を取った中での明確な回答というのが無い。

事務局長

確かに前回意見交換をして、賀茂中学校さんの意見を皆さんが聞いたと思います。その中で委員会として、皆さんからご意見を頂こうと考えていた所なのですが、それをするには資料が無さすぎるというご意見を頂きましたので、この資料をお示しさせていただきました。前回の議論につきましては、皆さんも賀茂中学校さんの意見ということで聞いていただいたと思います。それを基にまた資料をお示しして、議論をしていく段階と認識しております。

委員長

前回までの議論の中で、幼・保・小学校については、だいぶ議論が進み、大体の道しるべが見えて、後は中学校をどうするかというようなところをある程度話し合っていけば合併についての道筋は見えると議論してきましたけれども、今回の洋ランセンター跡地が利用できなくなった中で、議論が大きく後退して、開始当初の状態に戻ってしまったみたいになりまして、最初のスケジュール通りに保護者説明会を3月までにと言うのは、いかないのではないかと思っているところなのですけれども、こうなったからには仕方がないですから、先ほど言ったように教育委員会の新たな案を作って、この次に皆さんにお示しした中で、そこから議論を進めていくというような格好で、スケジュール通りにはいかないですが、何とか一歩ずつ進めて行ければと思います。

皆さんの方で、この次までに教育委員会の方で皆さんへ議論していく資料をこの次に提示したいということで、こういう資料が欲しいというものがあれば教育委員会へと皆様の方でお願いします。

副委員長

仁科小学校、西伊豆中学校。私は両方の地域にいますが、西伊豆中学校は避難地として町に認められております。仁科小学校は認められていないという話があるみたいですが、そういったことで西伊豆中学校は避難地として指定しているのですが、その辺についても次回ありましたら、提示をお願いしたいと思います。

事務局長

はい。防災の係に確認をしてみます。

委員長

他に皆さんの中で、こういう資料があったら議論しやすいという要望がありましたら、ぜひお願いいたします。

例えばこの洋ランセンター跡地がなぜ建設に適していないか具体的な資料をしめしてくれということもありましたらお願いします。

平馬委員

資料うんぬんということではなく、こういう資料を用意したから、こう議論をして欲しいというものが欲しいと思っております。

齋藤（一）委員

中学校の方でも聞きたいのですが、役場としての西伊豆中学校にしたら、安全面をどのようにしますという、ちゃんとした意見がないでしょうか。そういうことを聞けば回答できるのですが、ただこの紙を見て相手に伝えるのは困難だと思います。それも前回意見交換の時に、自分のまとめた意見を言っているのですが、具体性のある役場としての意見が欲しいです。

事務局長

具体的な安全対策としては、比較表の中の②の津波避難の状況の中で、津波の安全対策としてありますし、今日お配りした資料1にも避難路が西伊豆中学校については4本あり、なおかつこの1本につきましては、防災課が中心となって、より安全な避難路としての整備を今年度実施することあります。また、屋上への避難階段整備の検討もしていくど、安全対策として記載をさせていただいております。

窪田委員

すみません。教室数についてなのですが、中学校の西伊豆中学校と賀茂中学校の教室の数と統合後に必要になる教室の数が書いてあるのですが、例えばここに幼保が入るスペースは現状であるのでしょうか。教室の余りと言うのは十分にあるのでしょうか。

事務局長

現状の中で、中学校と幼保と言うのは難しいと思います。どちらかに寄せた場合に空くということはありません。ただ、小学校中学校となりますと、トイレなど色々な所を改修していかなければ、幼保を入れることは難しいかと思っております。

いずれにしても、事務局としても、持ち帰って検討していただけるような案と、それを検討できる資料を揃えさせていただいて、もう一度各保護者の皆様とご議論をしていただければと思いますが、そのような進め方でよろしいでしょうか。

委員長

特に意見がないようでしたら、先ほどから何回も言ってくいようですが、今までの議論が無駄になったような感じですが、次までに教育委員会の方が案を示しますから、それを基にそこから色々と皆さんのご意見を頂きながら進めていきたいと思しますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。ということで時間もだいぶ経過しましたので、ここで終わりたいと思ひます。閉会の挨拶を副委員長お願ひします。

副委員長

夜遅くまで大変ご苦勞さまでした。洋ランセンター跡地が駄目になったということで、今までの議論が無駄になったと言ひますか、無駄にはならなかったのですが、力の抜けたような感じになりました。それから子供達をより安全なところにとひうこと考へまして、こひう集まりで色々なご意見を頂ければと思ひておひます。ご苦勞さまでした。

以上